

開催日：令3年1月15日（金）  
開催場所：釧路市交流プラザさいわい1階多目的ホール

## 釧路湿原自然再生協議会 第24回河川環境再生小委員会 議事要旨

会議の冒頭、事務局から第23回旧川復元小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）について説明を行った。

### ■議事1：茅沼地区旧川復元事業について

（委員）

旧川に切り替わってから10年が経過している。できれば来年度に茅沼旧川の横断測量を行い、河道内の土砂堆積状況が10年間でどう変わったか確認しないのか。

（事務局）

横断測量は全川で定期的に行っている。来年度に行えるかどうかはわからないが、そういった調査の際に把握していく。

### ■議事2 ヌマオロ地区旧川復元事業について

（委員）

復元区間上流部の農地がH28降雨で削られ、土砂や人頭大の軽石が出てヌマオロ川に入っている。ヌマオロ川を蛇行復元しても農地からの土砂流出を止めなければ、軽石は湿原中心部に入っていく。この問題をどうしたらよいか。

（委員長）

この委員会マターを超えた大きな問題と感じている。事務局の意見はどうか。

（事務局）

ヌマオロ旧川復元は直轄区間で計画しており、進めていく。上流部分は農地の対策となるため、すぐには解決できない課題と聞いており、すぐに解決できない問題である。この場で即答はできない。関係機関が中心となって解決に向けた検討が必要と考える。

(委員)

現実の問題としてどう釧路湿原を守るか、その原点を示す現場である。農地開発は良かれと思って実施したが、農地が削れて湿原に影響する。行政縦割りの中で議論するだけではだめ。ヌマオロ川旧川復元は、上流から来る軽石を止められず、湿原中心部の乾燥化を止められず失敗する。どうやって湿原を守るのか、真剣に議論して行動してほしい。

(委員)

農地は防災事業で改良された。排水路の土砂をためる沈砂池を作って管理しているが来月土砂上げをする。参考として見ていただけるとよい。

### ■議事3 釧路川支川魚類生息環境の再生事業について

(委員)

護床連節ブロックが遡上の障害になるとのことであるが、改良はどうすればよいのか。どんなところから手を加えていけばいいのか、考えがあれば教えていただきたい。

(自然保護協会)

ブロックを外して木材の枠組みを付けるなどの改良を行っている。河道中央の護床をはずすことで、左右岸側の護床がずれないように配慮が必要である。

(委員)

護床連接ブロックの改良は全国的にも珍しいケースである。専門家、関係機関と議論して水深を確保にはどのような方法が良いか、方向性を決めていく。

(委員)

なぜこの河川で護床連節ブロックが必要だったのか。上流部に農地はあるのか。

(委員)

農地造成の際に、川を直線化して明渠施設を作る際に整備している。すべての農地で利用しているわけではなく、離農しているところもあり、そのような場所で近隣の営農者も含めて今後改良という方向で協議して進めていく段階である。

(委員)

牧草地や農地では降水により明渠の増水し流れが速くなり、連節ブロックがえぐりとられ修復工事が必要になった地域もある。慎重考えながら方向性を検討したほうが良い。

(委員)

現地の状況がわからず議論ができないため、図面を載せてほしい。

(委員長)

前回の小委員会では図面や河川名を示していた。前回の資料も参考にさせていただきたい。

(委員)

上流の農家が困らないかが心配である。

(委員)

対象流域の町内会や酪農家には説明し、理解をいただいている。魚道づくりにも参加していただいている。他にも魚道づくりに参加したいとの声があり、理解いただいている。

(事務局)

河川管理者との協議をきちんと行った上で実施していると聞いている。そのようなことも紹介すると安心してもらえるのではないかな。

(委員)

連節ブロックの入っている河床の勾配はどのくらいなのか。護床をはがすと河床変動が大きくなり悪影響が出るかもしれない。慎重に進めたほうが良い。

(委員)

川幅 2m 程度の小河川である。地元の隣接する農家が魚道を作ってほしいとの声もあった。

(委員長)

今年で事業開始から 3 年目である。認可が遅れ、寒い時期の工事になったがたくさんの方に参加をいただいている。

(委員)

小委員会では現地状況を示しづらく議論しにくいかもしれない。茅沼地区のように現地見学会をしたらよいと思う。

(委員長)

行政やイトウ保護連絡会に対してこれまでも現地見学会を行っている。協議会から要望があれば自然保護協会で検討していただきたい。

以 上